

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-75377

(P2006-75377A)

(43) 公開日 平成18年3月23日(2006.3.23)

(51) Int. Cl. F I テーマコード(参考)  
**A63F 7/02 (2006.01)** A63F 7/02 325Z 2C088  
 A63F 7/02 334

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2004-263270 (P2004-263270)	(71) 出願人	300007442 株式会社大和製作所 愛知県名古屋市西区中小田井四丁目4 1 1 番地
(22) 出願日	平成16年9月10日 (2004. 9. 10)	(71) 出願人	597130144 株式会社バイザック 愛知県名古屋市西区中小田井4 丁目4 1 1
		(72) 発明者	西川 豊 愛知県名古屋市西区中小田井四丁目4 1 1 番地株式会社大和製作所内
		Fターム(参考)	2C088 BC35 EB63

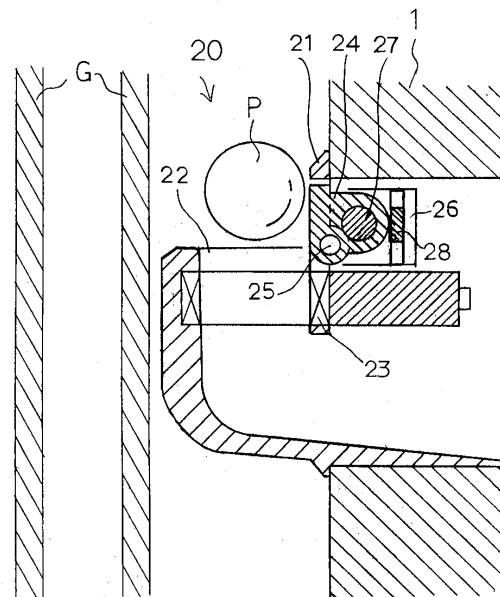
(54) 【発明の名称】 不正防止パチンコ遊技機。

(57) 【要約】

【課題】 通常時、遊技盤に突出しないように盤面より後方に自重により待機する突出部材を設けているが、構造的に突出部材が非常に小さいので、自重による待機の重量バランス釣合いが遊技中の機械の振動などで壊れやすく、遊技中に何らかの衝撃などで突然前記突出部材が突き出し入賞口を塞いでしまうことがあった。

【解決手段】 遊技盤の所定位置に設けた入賞口と、入賞口の入口に設けて該入口を開閉する開閉蓋と、開閉蓋に設けた磁性体と、開閉蓋を通常時は遊技盤に収納保持して入賞口を開放状態に維持する開閉蓋保持手段と、遊技盤の前部外方から不正磁石操作があった際、前記開閉蓋が不正磁石で吸引されて遊技盤の前面に突出し、入賞口の入口を閉止する。

【選択図】 図1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

遊技盤上を転動する遊技球に対して外部から磁石を用いて入賞口ないし始動口（以下総称して入賞口と呼ぶ）に誘導操作する不正行為を防止するための不正防止パチンコ遊技機であって、

前記遊技盤の所定位置に設けた前記入賞口と、該入賞口の入口に設けて該入口を開閉する開閉蓋と、該開閉蓋に設けた磁性体と、前記開閉蓋を通常時は遊技盤に収納保持して前記入賞口を開放状態に維持する開閉蓋保持手段と、前記遊技盤の前部外方から不正磁石操作があった際、前記開閉蓋が不正磁石で吸引されて遊技盤の前面に突出し、前記入賞口の入口を閉止することを特徴とする不正防止パチンコ遊技機。

10

## 【請求項 2】

前記開閉蓋は下部に回転軸を持ち、通常は遊技盤内で平行に収納保持され、不正磁石の吸引力が働くと遊技盤の前方に略 90 度回転して突出し前記入賞口の入口を閉止することを特徴とする請求項 1 記載の不正防止パチンコ機。

## 【請求項 3】

前記開閉蓋は前後方向にスライド可能に設け、通常は遊技盤内に収納保持され、不正磁石の吸引力が働くと遊技盤の前方に突出して入賞口の入口を閉止することを特徴とする請求項 1 記載の不正防止パチンコ機。

## 【請求項 4】

前記開閉蓋保持手段は、該開閉蓋を前記入賞口の入口が開放状態に維持されるように保持磁石で設けたもので、該保持磁石で前記開閉蓋を吸引し前記遊技盤に収納した状態に保持することを特徴とする請求項 1 乃至 3 記載の不正防止パチンコ機。

20

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、不正防止パチンコ遊技機に関し、特に遊技盤上に設けられた入賞口（ないし始動口、以下総称して入賞口と呼ぶ）に、外部から不正に磁石を操作して遊技球を入賞口に入賞させることを防止した不正防止パチンコ遊技機に関するものである。

## 【背景技術】

## 【0002】

パチンコ遊技機において遊技球が鋼球であることを利用して磁石で不正に誘導し入賞させる不正行為が行われる場合が多々ある。

30

これは遊技者が遊技機前面のガラス板に強力な磁石をあてがい、遊技盤上に転動する遊技球を入賞口へ誘導するもので、遊技上、特別利益効果が大きい入賞口や、大当たり抽選が行なわれる始動口へ入賞させて大当たりの確率を高めようとする不正な行為である。

この対策としては、パチンコ機に磁石が近づくことを検知するホール素子やリードスイッチなどの磁気検知センサーを入賞口付近に設け、この磁気センサーの検知によって制御装置で警報を発したり、また入賞信号をキャンセルしたり、賞球払出装置を停止したり、パチンコ機の動作を停止したりする等を、制御系で行なうことが種々考えられてきた。

## 【0003】

40

また別の従来技術としては、不正磁石が作用していないときには遊技盤の後方で自重により待機し、不正磁石が作用したときは、この不正磁石に吸引されて盤面の前方へ突出する突出部材を、入賞口の入口上部に設けたものがある。

## 【0004】

【特許文献 1】特開 2004 - 081524 号公報

【特許文献 2】特開 2004 - 147687 号公報

【特許文献 3】実開平 5 - 70582 号公報

## 【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

## 【0005】

50

しかしながら上記従来の特許文献 1 や特許文献 2 の技術では、入賞口に磁気検出器を設けて不正な磁石操作を検出し、各種動作停止や警報等を行なうが、不正行為がなされた証拠が直接的に見た目で残らないため、不正行為が行なわれたかどうかの判別ができなかった。またこの不正入賞による賞球払出しを未然に防止することは困難であった。

【0006】

また後者の従来技術では、不正磁石が作用していない通常時、遊技盤に突出しないように盤面より後方に自重により待機する突出部材を設けているが、構造的に突出部材が非常に小さく、このため自重による待機の重量バランス釣合いが遊技中の機械の振動などで壊れやすく、遊技中に何らかの衝撃などで突然前記突出部材が突き出し入賞口を塞いでしまう問題があった。更に前記突出部材は小形状のため、不正磁石による吸引力を受ける吸引面積が小さく、このため吸引動作が緩慢ですばやい反応動作が行なえない問題があった。

10

【0007】

本発明は上記の課題を解消するものであって、不正入賞を防止出来て、不正な賞球払出しを防止し、また不正行為があったことを直ちに証拠として残すので、不正な入賞行為を未然に防止できるパチンコ遊技機を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明は上記の目的を達成するためになされたものであって下記構成の遊技機である。

即ち本発明の請求項 1 の発明は、遊技盤上を転動する遊技球に対して外部から磁石を用いて入賞口ないし始動口（以下総称して入賞口と呼ぶ）に誘導操作する不正行為を防止するための不正防止パチンコ遊技機であって、

20

前記遊技盤の所定位置に設けた前記入賞口と、該入賞口の入口に設けて該入口を開閉する開閉蓋と、該開閉蓋に設けた磁性体と、前記開閉蓋を通常時は遊技盤に収納保持して前記入賞口を開放状態に維持する開閉蓋保持手段と、前記遊技盤の前部外方から不正磁石操作があった際、前記開閉蓋が不正磁石で吸引されて遊技盤の前面に突出し、前記入賞口の入口を閉止することを特徴とする不正防止パチンコ遊技機である。

【0009】

本発明の請求項 2 の発明は、前記開閉蓋は下部に回転軸を持ち、通常は遊技盤内で平行に収納保持され、不正磁石の吸引力が働くと遊技盤の前方に略 90 度回転して突出し前記入賞口の入口を閉止することを特徴とする請求項 1 記載の不正防止パチンコ機である。

30

【0010】

本発明の請求項 3 の発明は、前記開閉蓋は前後方向にスライド可能に設け、通常は遊技盤内に収納保持され、不正磁石の吸引力が働くと遊技盤の前方に突出して入賞口の入口を閉止することを特徴とする請求項 1 記載の不正防止パチンコ機である。

【0011】

本発明の請求項 4 の発明は、前記開閉蓋保持手段は、該開閉蓋を前記入賞口の入口が開放状態に維持されるように保持磁石で設けたもので、該保持磁石で前記開閉蓋を吸引し前記遊技盤に収納した状態に保持することを特徴とする請求項 1 乃至 3 記載の不正防止パチンコ機である。

40

【発明の効果】

【0012】

本発明パチンコ機は入賞口の入口を開閉する開閉蓋があり、開閉蓋には磁石で吸引される磁性体が設けてあり、通常時は開閉蓋を遊技盤に収納保持し入賞口を開放状態に保持する開閉蓋保持手段を設けてある。このため遊技中の振動などで遊技中に突然入賞口が閉止されるような問題が生じない。

【0013】

また遊技中に前面から磁石を用いて不正に遊技球を入賞口に誘導しようとする時、磁石によって開閉蓋の磁性体が吸引されて開閉蓋が突き出して入賞口の入口を塞ぎ、遊技球が入賞口に入るのを防止する。特に開閉蓋は軽量の樹脂材料で設けて磁性体を固定し、全体

50

に軽量の部材に設けられるので、不正磁石の吸引力で開閉蓋が迅速に作動して不正な入賞を防止する。更に不正磁石による不正操作があったことを直ちに目で判る状態で証拠として残す。このため不正操作が未然に防止され、健全な遊技が行なえるものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

以下本発明の実施例について説明する。

図1～図3は本発明の第一実施例を示し、図1は通常の入賞口20が開いた状態を示す側部断面図で、図2は図1の平面断面図で、図3は不正操作によって入賞口20が塞がれた状態を示す側部断面図である。

図において1は通常ペニヤ板で形成される遊技盤である。遊技盤1には液晶等の図柄表示装置や風車、遊技釘、大入賞口等、各種の役物が設けられ、夫々機種によって定められた遊技ルールに従い、始動口や特定の入賞口に入賞すると遊技者に大きな利益をもたらす様になっている。

本実施例では、この始動口や特定入賞口へ磁石によって遊技球を導き、不正な手段で入賞させる行為をなくし、また防止することが出来るようにした。

【0015】

図1～図3において、本発明の入賞口20は、遊技盤1に入賞口の取付基板21と遊技球Pを受け入れる受口22とがあり、通常全体を合成樹脂で構成される。受口22に入った遊技球Pは遊技球検出器（近接センサー）23を通過して遊技盤1の裏面へ排出される。

受口22の上部に開閉蓋24が回転軸25を中心に回転可能に取付板21に取付けられている。回転軸25は取付板21の裏面にねじ止め固定した取付版21によって固定されている。

【0016】

図1において開閉蓋24には磁性体による重錘27が装着してある。重錘27は回転軸25より後方になるように設けてあり、また重錘27の後方に磁石28を、取付具26を介して装着してある。この磁性体27と磁性体の後方に設けた保持磁石28とによって開閉蓋保持手段としており、遊技中に何らかの振動などで不用意に閉止するのを防止している。保持磁石28は図2のごとく取付板21の裏面にねじ止めしたねじと取付具26とによって固定されている。

【0017】

遊技中、2枚のガラスGからなる前面扉の前面から、不正に強力な磁石を用いて遊技球Pを入賞口20へ誘導しようとする時、開閉蓋保持手段の保持磁石28よりも不正磁石の方が吸引力が強いので、開閉蓋に装着した磁性体27は保持磁石28に抗して前方へ吸引され、図3のごとく開閉蓋24が遊技盤1の前面へ略90度回転し、遊技盤に突出して入賞口の受口22を閉止する。

【0018】

磁性体の重錘27は回転軸25より前方にあるので、不正磁石が取り去られても開閉蓋24が入賞口を閉止した状態が維持され、ガラス板Gのガラス扉を管理者によって開け、開閉蓋24を元の位置に戻さなければ正常な状態に戻せず、このため磁石による不正行為があったことが証拠として残る。

このため不正な入賞そのものが確実に防止出来て、不正な賞球払出しが防止でき、また不正行為があったことを直ちに証拠として残すので不正な入賞行為が未然に防止出来る。

【0019】

図4、図5は本発明の第二実施例を示す入賞口30で、図4は通常の状態と閉止状態とを兼用した側部断面図で、図5は正面図である。

本実施例の場合、回転軸35を中心として90度回転する開閉蓋34の裏面に板状の磁性体37を装着し、その裏面に磁性体37を吸着するように開閉蓋保持磁石38を、取付板31から伸びる取付具36に固定して設けてある。

本実施例の場合も、通常は開閉蓋34が保持磁石38に吸着して、開閉蓋34が遊技中

10

20

30

40

50

に不用意に閉止することが防止されている。また外部から不正磁石による不正な遊技球操作があった場合は、不正磁石の吸引力で開閉蓋 3 4 が遊技盤 1 の前面側に略 90 度回転して入賞口の受口 3 2 を閉止し遊技球 P が入賞するのを防止する。

【0020】

図 6 ~ 図 8 は本発明の第三実施例を示す入賞口 5 0 で、図 6 は通常の状態を示す側部断面図、図 7 は不正時に入賞口 5 0 が閉止された状態を示す平面断面図、図 8 は入賞口 5 0 の正面図である。

本実施例では、遊技盤 1 の前後にスライドするスライドピストン 5 4 を前後にスライドさせて入賞口 5 0 の開閉蓋 5 4 としている。またスライドピストン 5 4 を磁性体で設け、前後方向のスライド規制を止めピン 5 9 とシリンダー 5 6 に設けたスライド溝 6 0 で行なっている。スライドピストン 5 4 を樹脂材料で設け、ピストン 5 4 の前後に磁性体を装着してもよい。

10

【0021】

シリンダー 5 6 は取付板 5 1 に一体に形成され、シリンダー 5 6 の底部に開閉蓋保持用磁石 5 8 を設けてある。通常の状態ではスライドピストン 5 4 が保持磁石 5 8 によって入賞口 5 0 を開放状態に保持し、開閉蓋 5 4 の保持手段としている。またガラス G の前方から不正な磁石操作が行なわれると、磁石の吸引力でスライドピストン 5 4 が遊技盤 1 から突き出し、図 7 のごとく入賞口 5 0 に突き出し、入賞口の受口 5 2 を塞ぐ。

尚、図 6、図 8 で示す 6 1 は、遊技球 P が入賞口に入賞した際に光による演出効果を持たせるために設けた LED ランプで、入賞口正面の取付板 5 1 で LED が点滅するよう、取付板 5 1 の裏面に LED 基盤 6 2 を保持して設けている。

20

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図 1】第一実施例の入賞口 2 0 を示し、通常時の入賞口が開いた状態を示す側部断面図である。

【図 2】図 1 の平面図である。

【図 3】図 1 の状態から不正磁石操作によって入賞口が塞がれた状態を示す側部断面図である。

【図 4】第二実施例の入賞口 3 0 を示し、通常状態と閉止状態とを兼用した側部断面図である。

30

【図 5】第二実施例の入賞口 3 0 を示す正面図である。

【図 6】第三実施例の入賞口 5 0 を示し、通常時の入賞口が開いた状態を示す側部断面図である。

【図 7】図 6 の状態から不正時入賞口 5 0 が閉止された状態を示す平面断面図である。

【図 8】第三実施例の入賞口 5 0 を示す正面図である。

【符号の説明】

【0023】

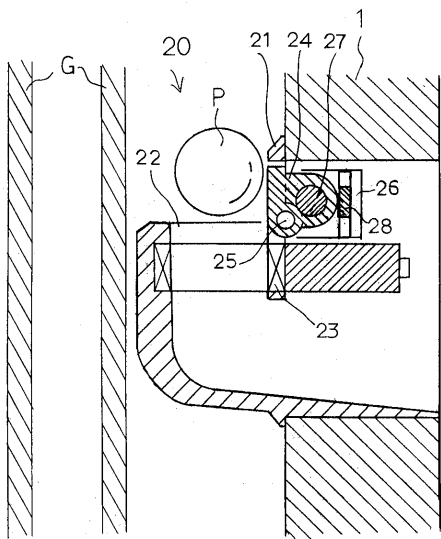
- 1 遊技盤
- 2 0、3 0、5 0 入賞口
- 2 1、3 1、5 1 取付板
- 2 2、3 2、5 2 入賞口の遊技球受口
- 2 3 遊技球検出スイッチ（近接センサー）
- 2 4、3 4、5 4 入賞口開閉蓋
- 2 5、3 5 回転軸
- 2 6、3 6 取付具
- 5 6 シリンダー
- 2 7 磁性体の重錘
- 2 8、3 8、5 8 開閉蓋保持手段の磁石
- 5 9 止めピン
- 6 0 スライド規制溝

40

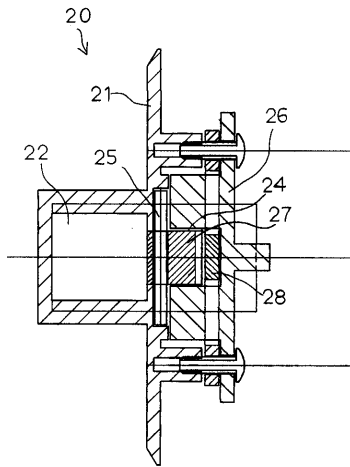
50

6 1 LEDランプ

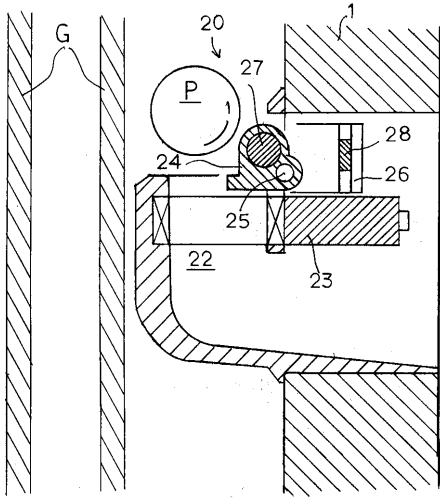
【図1】



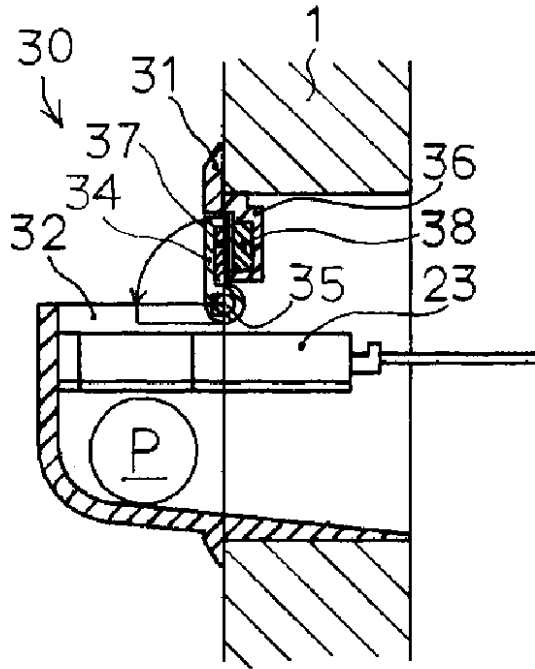
【図2】



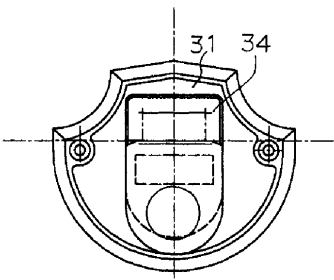
【図3】



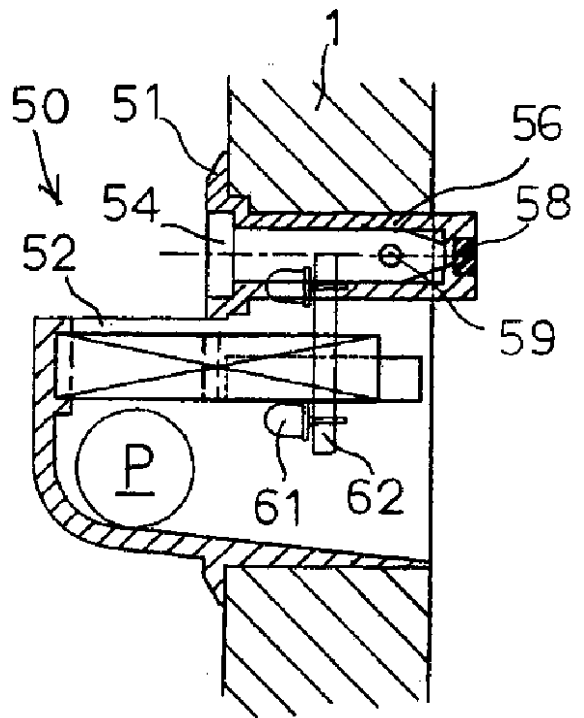
【図4】



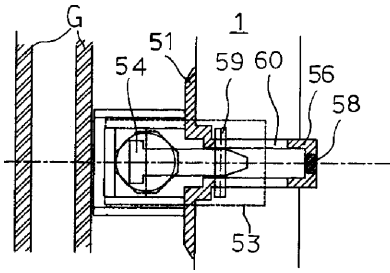
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

